

広報の進め方について

令和4年3月29日
自動車局

現行の広報

0.3

億円(R4予算)

課題

- ・ スポットでの一般的なマス向けアプローチであり、継続的な周知・広報となっていない
- ・ 自動車ユーザーをはじめ、国民全体に被害者等の状況、被害者等支援や事故防止が知られる取組みになっていない
- ・ これまで広報への意識が不足。予算額も小さく、効果的な広報を行うノウハウも不足



【主な取組み】

- ・ 自賠責保険加入キャンペーン
- ・ 「交通事故にあったときには」の印刷・配布
- ・ 「交通事故版被害者ノート」の印刷・配布

広報見直しのポイント

- ・ 自動車ユーザーやその家族等との継続的なタッチポイントを意識した周知・広報の場の確保
→ 自動車ユーザーとその家族等が相互に事故被害を社会課題として認識し合う社会の形成
- ・ 端的にわかりやすく新たな負担の必要性や被害者等支援等の重要性を伝えるコンテンツの作成
- ・ さらに被害者等支援等の具体的内容や賦課金制度について深掘りしたい方向けコンテンツの作成

広報見直しのイメージ

➡ 支援対象者への確実なアウトリーチ、負担の必要性に関するユーザー理解の醸成

羽田空港の新飛行経路に係る広報(国交省)



再生可能エネルギー賦課金に係る広報(エネ庁) タッチポイント(接点)の確保



警察・医療機関との連携
(事故発生時・免許更新等)



マスコミを通じた広報



地方部での
広報強化